

# 社会貢献活動

地域の皆さまとともに生きる企業市民として、社会と積極的に関わりを持ち、地域の環境保全および活性化に取り組んでまいります。

## 地域清掃活動

周辺地域の美化を目的に、各事業所で清掃活動に参加いたしました。従業員一人ひとりが環境への高い意識を持ち、継続的に活動に参加してまいります。



帝人テクロス(株)  
「ごみゼロ運動いなざわ」  
2018年5月 50名参加



尾張整染(株)  
町内側溝清掃  
2017年6月 約60名参加



## 教育機関との連携（企業訪問）

住江織物(株)東京支店では、近隣の学校がキャリア教育の一環として推進する「企業訪問」に協力しております。

2017年9月には6名の学生が東京支店を訪れ、実物のカーテンやラグマットを使用したインテリアコーディネート体験と「企業のあり方とは何か」「なぜ勉強するのか」など広い視点から社会を学ぶためのディスカッションを行いました。

参加した学生からは「校長室を想定したコーディネートが楽しかった」「企業訪問での体験を将来に活かしていきたい」などの感想をいただきました。



カーテンの取り付けを体験する様子

## 卒業資格取得のサポート

メキシコでは小学校は義務教育ですが約10%の生徒が中退してしまい、特にSuminoe Textile de Mexico, S.A.de C.V.<STM>のあるグアナフアト州はその割合が高いのが現状です。STMは、企業内でそうした社員に卒業試験を受ける機会を提供し資格取得を促進する州のプログラムをサポートしております。

2017年度は社内でも5名が受験し全員合格しました。合格後には「自分自身にも自信が持て、家族とも喜びを分かち合えた」との嬉しい声を聞くことができました。このうち2名はさらに中学校卒業資格取得に向けて勉強中です。



## 歴史コラム その五

### 昭和～後期 ～経済成長の風に乗って～

新宮殿の造営にあたって内装品納入のご用命を賜り、半世紀の伝統に培われた技術を集結し製作にあたる。

1971(昭和46)年 奈良工場が完成。新設のタフティングマシンが針をさすリズムカルな音が工場に響いた。



豊明殿  
手織り絨通

### 当社OBに聞く、昭和時代の住江織物

135年にわたる住江織物の歴史の一幕を築いてきた当社OBを訪問し当時の仕事や住江織物について伺いました。

一番印象に残っている仕事と言えばやっぱり新宮殿のことだと思う。正殿の壁面は我々が製作した、松のデザインを配した幅約3m、長さ約4mの紋織物※1である。1966年の試作から始まって、本番の納入までは緊張の連続だったが、立派な物を納めさせてもらったと自負している。特に、大食堂※2の天井には煌びやかなシャンデリアが、床面には杉山寧氏デザインの住江織物製のカーペットが納入され、それは圧巻の雰囲気だった。

式年遷宮の御装束・御神宝の製作には光栄なことに私自身2回携わることができた。物を納めるまでは本当に大変だったが、今思い返すと素晴らしい仕事をさせてもらえて光栄だった。

その他に、技術者として技術士という国家資格を取得したことで色々な人と関わりを持って、仕事でも

役立った。

当時の工場は、ベテランの技術者や遠方から来て働いている人も多かった。職場の仲間とは、30代の頃、登山グループを作ってよく山に出掛けたのが思い出に残っている。

※1 紋織物:色々な組織を組み合わせ、また色糸を使用するなどして文様を織り出すこと

※2 大食堂:皇居の中にあり晩餐会が行われる場所

#### 鶴飼 達二さん

昭和22年に入社。30余年にわたり住吉工場、河内工場、京都工場にてモケットやカーペット、ドレープの製造に携わり、その後デザインの仕事にも従事。

その後も幡(ばん)と呼ばれる皇居に掲げる旗の組成を調べる業務で会社に貢献した。



## 編集後記

「CSRレポート2018」をお読みいただき、ありがとうございます。

今回は、新たに策定したCSR中期計画を掲載いたしました。この計画は、レポートの国際ガイドラインを参考にし、当社グループが2年間にわたって注力する事項を選定したものです。今後は再発防止中長期プランとCSR中期計画の着実な推進で企業価値向上を図り、皆さ

まから信頼される企業を目指してまいります。つきましては、今後の参考とさせていただくため、当社グループのCSR活動について忌憚ないご意見をアンケートにてお寄せいただけますと幸いです。

最後になりましたが、この場をお借りして、本レポートの発行にあたって多大なご理解とご協力をいただいた方々に感謝申し上げます。

CSR推進室 杉山 千咲



CSRレポート作成メンバーによる、原稿作成会議